

移行している中での導入となります。

しかし、MFAの導入だけで安全・安心と言えるでしょうか。リモートワークしている端末やGoogle Workspaceの通信は暗号化されており、また、必ずしも岡崎3機関ネットワークORIONを経由しないため、岡崎に設置されているセキュリティ機器では守れません。そこで、「全てを信用せず、必要な時に必要な認証を行いその結果に基づき情報資産を使用させる。」というゼロトラストという考えが出てきます。そもそも情報を処理する端末が脆弱なら、サービス側のセキュリティや認証がしっかりと管理されていても、端末からインシデントが発生してしまいます。「安全な端末で本人確認性の高い認証で認証したユーザにサービスを

利用してもらう。」という事が大切となります。

端末セキュリティを担保するためにFortiEDRとFortiClientという2つのソフトウェアを導入しました。FortiEDRは、これまで岡崎3機関内で配布していたセキュリティソフト ESET に替わるもので「軽い動作」「インシデント発生時など管理者の情報収集作業の補助機能の充実」という特徴があり、巨大なパターンファイルに依存しない機械学習型検知システムによって、端末に負担をかけず、未知の攻撃にも対応できる可能性が期待できます。次にVPNを行うFortiClientですが、付加機能として端末にインストールされているソフトウェアの脆弱性を検知し修正方法をアドバイスしてくれる機能も付い

ています。この2つのソフトウェアは、FortiEDRが端末の外部からの脅威に対応し、FortiClientは端末内部の脅威に対応するという相補的な関係にありますので、分子研所内の端末には是非、2つのソフトウェアの導入を行ってください。

ここまで、導入背景と認証と端末セキュリティに関する簡単な紹介をさせていただきました。本稿がORION2022の認証と端末セキュリティの利用について理解の一助になれば幸いです。

最後に、岡崎情報ネットワーク管理室では、ポータルサイト“<https://info.oico.orion.ac.jp/>”で各種情報を発信しています。是非、ご活用ください。

## 共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

### 共同研究専門委員会よりお知らせ

#### 共同利用研究の実施状況（採択件数）について

種別	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (5月31日現在)
課題研究	4	2	4	2	2	2	4
協力研究	82	73	45	37	53	47	36
協力研究（マテリアル） <sup>(注3)</sup>	57	64	81	69	44	66	10
協力研究（NMRプラットフォーム） <sup>(注4)</sup>	-	-	-	-	-	3	-
分子研究会	7	9	10	7	4	4	1
若手研究活動支援	1	2	1	2	1	2	1
岡崎コンファレンス	3	0	1	2	0	0	0
計	147	150	142	119	104	124	52

(注1) 課題研究・協力研究の通年課題は前期と後期の2期分として、1課題を2として年度計に表す。

(注2) 新型コロナウイルスの影響により研究期間を延長した前期課題は後期の件数に計上しない。

(注3) 2021年度まで「協力研究（ナノテクノロジープラットフォーム）」の件数。

(注4) 協力研究（NMRプラットフォーム）は2021年7月1日から2022年3月31日まで実施。

#### 分子研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2022年2月28日～3月1日	アト秒レーザー科学研究施設（ALFA）計画の現状と展望	山内 薫（東京大学大学院理学系研究科）	96名
2022年3月8日	エネルギー科学の最前線：階層横断的な理解に向けて	中村 敏和（分子科学研究所）	192名

#### 若手研究会等

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2021年9月7日, 9月9日, 11月8日～11月17日	キラル物質に特有なスピン輸送現象の探究	鈴木 裕太（東京大学大学院理学系研究科）	11名

## 運営会議よりお知らせ

分子科学研究所では、分子科学分野コミュニティに開かれた運営を行っていくため、所長の下に、所内10名、所外10名の委員からなる運営会議が設置されています。所外委員は、関連学会（分子科学会、日本化学会、日本物理学会、錯体化学会、日本放射光学会、日本生物物理学会）から推薦を受けた委員による学会等連絡会議において選考されます。所外委員には1期2年の任期で原則2期4年をお願いしており、2022年度は下記のとおり半数が交代になりました。

運営会議では、研究教育職員の人事および共同利用・共同研究等の研究所を運営する上で重要な事項を審議します。また、運営会議は、自然科学研究機構・機関長選考委員会（所長選考委員会）からの依頼を受け、次期所長候補者の選考も行います。人事および共同利用・共同研究等の審議のため、運営会議の下に人事選考部会と共同研究専門委員会が置かれています。運営会議委員により構成される人事選考部会（所内および所外各5名の合計10名）で審議・決定された事項は運営会議での決定事項として扱われるため、改めて審議する必要がありません。一方、運営会議委員以外も委員となり得る共同研究専門委員会（所内6名、所外6名の合計12名）での審議事項については、従来、運営会議においても審議しておりました。しかし、迅速かつ効率的な運用を図るため、共同利用研究の採否は電子メールによる審議・承認へと2018年度に変更されました。2022年度の運営会議長、人事選考部会長、共同研究専門委員長については、所内教授の秋山（継続）、石崎（新規）、魚住（継続）が務めております。また、運営会議所外委員の村越教授には運営会議副議長をお願いしております。

### 2022年度～2025年度運営会議 所外委員（新規） \*印は人事選考部会委員（以下同様）

岩佐 義宏 東京大学大学院工学系研究科 教授  
高橋 聡 東北大学多元物質科学研究所 教授  
唯 美津木 名古屋大学大学院理学研究科 教授  
真船 文隆 東京大学大学院総合文化研究科 教授  
\*吉澤 一成 九州大学先端物質化学研究所 教授

### 2020年度～2023年度運営会議 所外委員（2期目）

\*秋吉 一成 京都大学大学院工学研究科 教授  
\*忍久保 洋 名古屋大学大学院工学研究科 教授  
\*芳賀 正明 中央大学理工学部 名誉教授  
\*福井 賢一 大阪大学大学院基礎工学研究科 教授  
村越 敬 北海道大学理学研究院 教授

以下は退任された運営会議所外委員の方々です。これまでの多大なご支援、ご協力に感謝いたします。今後ともよろしくお願いたします。

### 2018年度～2021年度運営会議 所外委員

\*鹿野田一司 東京大学大学院工学系研究科 教授（分子研レターズ70号で執筆：レターズ欄）  
袖岡 幹子 理化学研究所・袖岡有機合成化学研究室 主任研究員  
谷村 吉隆 京都大学大学院理学研究科 教授（分子研レターズ65号で執筆：レターズ欄）  
\*中井 浩巳 早稲田大学理工学術院 教授  
藤井 正明 東京工業大学科学技術創成研究院 教授（分子研レターズ65号で執筆：関連学協会等の動き）